

教育研究創発機構 第7回 公開研究会  
日本学術振興会人文社会科学振興プロジェクト  
「日本の教育システム」研究グループ 第1回 シンポジウム  
「教育の失敗」

期 日：2005年1月29日(土)  
時 間：13:00～17:00  
場 所：東京大学赤門総合研究棟 2階 200番教室

基 調 報 告：

- (1)人材形成の「失敗」(小塩隆士：経済学；神戸大学大学院経済学研究科助教授)
- (2)教育行政・政策・改革の「失敗」(苅谷剛彦：教育社会学；東京大学大学院教育学研究科教授)
- (3)社会化の「失敗」(原田豊：犯罪社会学；科学警察研究所犯罪行動科学部部長兼犯罪予防研究室長)
- (4)教育研究の「失敗」(松浦良充：比較教育学、大学・高等教育研究；慶應義塾大学文学部教授)
- (5)教育測定・評価の「失敗」(倉元直樹：教育心理学；東北大学高等教育開発推進センター・アドミッションセンター助教授)

討 論 者：

潮木守一氏(桜美林大学大学院国際学研究科教授 教育社会学、高等教育研究)  
千田有紀氏(東京外国語大学外国語学部地域・国際講座社会系列助教授 現代社会学  
家族・ジェンダー研究)

司 会：

苅谷剛彦(東京大学大学院教育学研究科教授・教育研究創発機構長・  
「日本の教育システム」研究グループ長)

どうぞ自由にご参加ください

お問い合わせ先

東京大学大学院教育学研究科学校臨床総合教育研究センター 諸田裕子(当センター 教務補佐)

E-Mail: morochan@p.u-tokyo.ac.jp

教育研究創発機構: TEL:03-5841-3916/FAX:03-5804-3826/E.mail:kikou@p.u-tokyo.ac.jp

HP アドレス: <http://www.p.u-tokyo.ac.jp/kikou/>

\*\*\*\*\*

主旨説明：教育をめぐる多くの議論は、教育の「失敗」を前提とした予見から始まる。一例を挙げれば、学校教育の場合、「画一教育」や「受験教育」等々が、「創造性」や「個性」を育むことに失敗してきた、それゆえ、教育改革が必要であるといった言説に顕著な問題認識である。ところが、そもそも、教育のどのような事態を指して、「失敗」とみなしているのか。どのような方法を用い、どういう因果関係を想定し、何を根拠に「失敗」の断定が行なわれているのか。従来の研究においては、その点が十分明解に意識されてきたわけではない。

私たち「日本の教育システム」研究グループは、教育において「失敗」とみなされてきた事象やその判断自体を取り上げ、(1)「失敗」としての問題構成、(2)「失敗」の判断基準の社会科学的な妥当性、(3)(2)が妥当ではない場合、にもかかわらず、なぜ、そのような「失敗」のイメージがつけられ、ひろまっているのか、そして、「失敗」の原因帰属が正しい場合、その原因を取りのぞくための方策（政策）として何が考えられるか、また、妥当な方策がこれまで採られてきたのか、といった問題関心を共有し、人文・社会科学のさまざまなディシプリンの協力を得て、平成16年度4月より研究をすすめてきた。本シンポジウムでは、これまでの進捗状況報告をもとに、2名のディスカッサントを迎え、“教育の失敗”研究の可能性についてフロアをまじえた議論を展開したいと考えている。( 荻谷剛彦 )

\*\*\*\*\*